

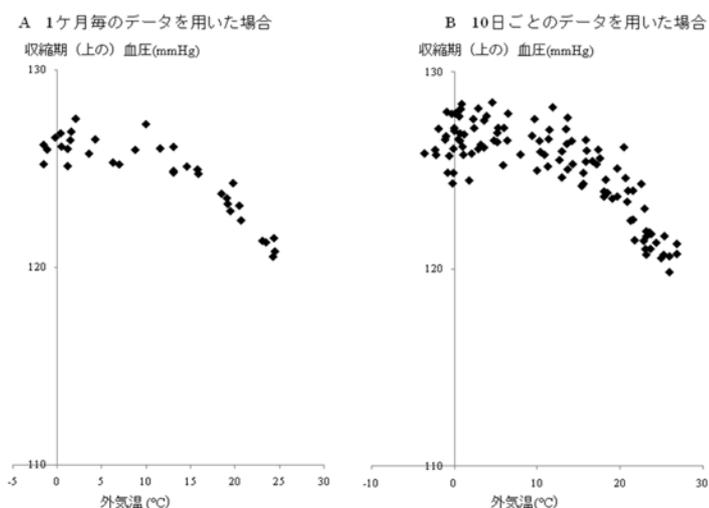
家庭血圧値の季節変動性と外気温の関連

Seasonal variation in home blood pressure measurements and relation to outside temperature in Japan

2011年 Clinical and Experimental Hypertension 発表

血圧の季節変動を長期間に渡って評価

血圧が季節によって変化することは良く知られておりますが、その変化が気温の変化と完全に一致するかについては良く分かっておりませんでした。そこで本研究では家庭血圧を長期間測定したデータを用いて、血圧と気温の関連について調査いたしました。その結果、外気温が10°C以下の時期は家庭血圧の変動が小さく、10°C以上になると外気温の上昇に伴い家庭血圧が低下することが示されました。また、最も血圧が低くなるのは平均気温の最も高い8月でしたが、血圧が高くなるのは3月であり、気温が最も低い2月ではありませんでした。



研究のデータについて

F県N町における連続的な家庭血圧測定事業に参加した対象者のうち、3年間毎月最低家庭血圧を1回以上測定した(36か月)79名及び3年間最低10日に1回は家庭血圧を測定した36名のデータを用いて分析を行いました。気温の情報は気象庁で公開している地域別の平均気温を使用いたしました。

研究の特徴と限界について

3年間という長期間にわたって連続的に家庭血圧測定を実施した対象者のデータを分析することが出来た極めて貴重なデータです。気温が10°Cを下回ると、気温の低下に伴う血圧上昇が認められないのは、室温管理の影響と考えられます。特に寒い時期に室温を管理する重要性を示唆したデータであると考えます。また、3月に血圧のピークがありましたが、国内の脳卒中・心筋梗塞の季節変動を報告した研究でも冬同様、春に脳卒中・心筋梗塞のピークが示されており、それらの研究の動向と一致した結果と言えます。本研究の限界は室温測定のデータを得られなかったことです。室温測定のデータを付加した研究の実施により、本研究では明言できなかった室温管理の重要性を確認することが出来ると考えています。